

農村女性の生活時間調査

— 地域的・社会的活動に関わる女性を対象として —

昭和女大短大 ○ 瀬沼 頼子 日大農獣医 糸長 浩司

【目的】現代女性には、地域・社会での積極的な関わりが求められているが、とりわけ農村地域においては、農業の担い手、地域活性化や地域づくりでの役割、新しいライフスタイルを形成していくことなどが期待されている。本研究は農村地域女性を対象に、その中で地域・社会的活動を行っている女性に着目し、生活時間調査分析を通して生活実態を明らかにし、今後の農村地域女性の地域・社会への関わり方や、より主体的な生活の仕方について検討を行うことを目的としている。

【方法】1994年8月に新潟県Y町の女性の中から、食生活推進グループをはじめとする諸活動に関わる女性を抽出し、生活時間調査・付帯アンケートを郵送留置法で実施した。

【結果】有効回答数は38。回答者は20歳～60歳代にわたり、うち有職者は8割である。以下、全般的な分析結果について報告する。

平日1日の生活時間は、起床5時33分、就寝22時33分、生理的生活時間のうち睡眠時間は7時間10分である。有職者の場合、通勤時間は24分、勤務時間は8時間余りである。家事的な生活時間は、有職者は3時間余り、無職では8時間近くと長い。家事の仕方では、職の有無に関わらず朝の早いうちに家の掃除や洗濯などを済ませ、「朝型」の生活である。農村地域ならではの、農家以外でも田畑で過ごす時間が見られる点である。（平日の無職では58分、有職では19分）社会的文化的な生活時間の過ごし方では、TV・ラジオ視聴が約1時間と最も長く、次いで団らん20分、付き合い・交際時間と新聞・雑誌を読む時間が12分となっている。